

1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3471300214
法人名	社会福祉法人 若葉
事業所名	高齢者グループホーム「潮の香」
所在地	〒722-2211 広島県尾道市因島中庄町字油屋新開4804 (電話) 0845-26-2148
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31 大福ビル201号
訪問調査日	平成 19 年 12 月 4 日

【情報提供票より】(19年 11月 28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成) 13 年 10 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 3 人 非常勤 8 人 常勤換算 7.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	5 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無)			
保証金の有無 (八百円以上か)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	550 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	81 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	因島医師会病院・岡崎医院・藤田医院・ファミリー歯科宮地
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成 19年 12月 10日

グループホーム潮の香は地域生活総合支援センターの中であり、子供からお年寄りまで地域福祉の拠点となって、馴染みながらの利用が自然に行われている。理念は常に原点に立ち返り、現場を通して理念のあり方を考え、見直しをしたり、職員間で研修することで更に意識づけや共有が図られている。又、法人代表者・管理者・職員それぞれ熱意や思いをひとつにし、その人らしさをどう支援するかを基本とした日々のケアに取り組んでいる。ケアプランはとても具体的で年代別の生活歴や日々の状態把握されたものを基に、月1回ケアプランの細やかな見直しがされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点について真摯に受け止め、職員間で話し合いがされ、優先順位を決めて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価前に外部評価の意義については職員間で共有している。自己評価の作成は管理者が行い、結果については職員で協議している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的開催されているが、行事についての情報交換に留まっている。地域の理解と支援を得るための貴重な機会なのでさらに有意義な会議となるよう、取り組みが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	各職員が家族の訪問時に話しかけを行い意見を聞いている。雑談の中で意見が汲み取られることもある。各地域に職員が住まれており、その地域で生活されている利用者の家族の声に耳を傾けている。今後、家族と職員での懇親会の開催予定である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	以前居住されていた地域とのきずなも大切にされている。自治会の行事にも積極的に参加し、地域福祉の拠点となっている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	すべての人が地域で普通に生活をするための大切さを理念とし、運営されている。福祉の拠点となり、地域に根付いている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員と共に作り上げられたものである。年に1回法人全体の職員で理念についての研修をしている。原点に立ち返り現場を通して理念の在り方について意識付けがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会行事にも積極的に参加され、地域福祉に貢献している。職員が因島の各地域で生活しており、その情報が入りやすい。利用者はその情報を基に地域での行事に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義について職員は理解をしている。前回の評価についても前向きに取り組まれている。今回の結果についても話し合いを行い、職員間で共有し取り組みを行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催しているが議題については行事予定や情報交換に留まっている。		地域住民や家族へ幅広く呼び掛けを行い、議題についても柔軟に考え、有意義な会議となるよう、取り組みに期待する。運営推進会議は地域住民や家族の理解と協力を得る貴重な機会である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今まで築いた市町村との信頼関係や連携はあった。合併を機にさらに新しく築いている最中である。先ず、どんなことでも電話で済ますことなく市役所に出向いている。そこから顔なじみの関係を築く努力をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ケアプランと「潮の香」だよりを家族へ発送している。日々の暮らしぶりも書き添えられきめ細かく報告されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員と家族の信頼関係があり、懇親会の予定もある。雑談の中での意見も汲み取られ、運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での移動は最小限に留められ、止むを得ず移動する場合は引継ぎの時間を十分に確保し、利用者と同様にならないうちに正式な異動を行っている。利用者へのダメージを防ぐ配慮がなされている。新任の従業者についてはホームに適した人材であるか十分に検討している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で月1回の研修がある。外部の研修については参加時には内部研修で情報が共有されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの利用者を含めての交流を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の要望があり、居室が空いている場合に「体験入居」の機会を設けている。日中の見学は必ず行い、希望に応じた支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や手仕事など、利用者は人生の先輩という観点で相談したりされたりする場面がある。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を大切に、家族とも連絡を取りながら随時支援をしている。同窓会や地域行事へ参加している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者が介護計画の土台を作り、毎月のケア会議で活発な話し合いが行われている。きめ細かな個別対応ケアプランを作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	必ず1カ月に1回の見直しが行われている。状態変化が生じた場合、利用者の状態を細かく確認し、連絡ノートで職員間の情報の共有がされている。日々の対応について職員間での連携が出来ている。又、状況に即して新たな介護計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現時点では利用者の希望により法人内のデイサービスを利用している。今後外部の機能を利用する場合も同じように対応する。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院については家族が対応している。地域間の病院の連携がなされ、利用者への支援が適切になされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医との連携がなされ、受信や往診の対応がなされている。本人や家族の希望を大切に、職員間の情報の共有がなされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導など、利用者に対する日々の取り組みについて、自尊心やプライバシーへの配慮がなされ、職員間で連携して対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年代別生活歴を記録し、その人らしい暮らしを模索している。利用者の希望について「どのようにしたら実現できるか」という視点を大切に運営されている。利用者の状況や状態に合わせた設備の改善がされている。食事時間なども利用者のペースに合わせて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に買い物に出かけ、意見を聞きながら献立をたてている。準備や後片付けも利用者と共に行っている。食事内容に力を入れ、重点的に取り組んでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日でもよい。時間帯は決まっているが利用者の希望や状態に応じて対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事準備や後片付け、洗濯物たたみなど、それぞれに役割を持って生活している。園芸や生け花、編み物、裁縫など楽しみを発揮できる支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に7～8回の外出支援が行われている。毎日の買い物や散歩など運動も兼ねて出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。職員は利用者の状態や傾向を把握し、見守っている。帰宅願望のある利用者については職員が同行して納得されるまで対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者はグループホーム協会が主催する防災セミナーへの参加をしている。利用者が参加した定期的な火災訓練の実施をしている。		地震や水害等の防災について、研修や訓練の実施が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分量について、ケース記録で確認している。栄養バランスにも配慮し、献立にも力を入れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は家庭的で手作りのものや季節感のある飾り付けがなされている。全体的にゆったりとした配置がされ、目が届きやすい構造である。光や音にも配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに持ち込まれた家具や物品があり、利用者が落ち着いて生活できる空間である。居室から直に、広々として日当たりが良いベランダに出ることが出来る。		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 潮の香

評価年月日 2007年 11月 28日

記入年月日 2007年 12月 10日

記入者 代表/管理者 氏名 橘 雅之

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		"文章"として、頭に入れているのではなく、なぜこのような理念、倫理要綱になっているかを経験年数を問わず考える機会を作りたい
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		入居前の地域の方から「施設に入所したから」という声がある。"入所"して地域から離れているのではなく、本人の生活環境がまだその地域にあることを理解してもらいたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		地域の方の来訪はほとんど無いので、総合支援センター全体として考えていきたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		行事参加のみでなく趣味活動的なものへの参加も可能になるように努めたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	GHとしての取り組みは現在無い		総合支援センター全体として考えていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価後は評価表及び要点をまとめ、法人へ提出。事業所内での研修にて周知徹底し、改善に取り組む		今回の評価も生かして生きたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者さんの近況報告、行事等の報告を行い、主に事業所側職員以外からの意見を頂くように努めている		報告事項が主になっているのでそれ以外の運営推進会議のあり方を勉強していきたい
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	なるべく市役所に直接行くようにしているが、市担当者が事業所側に来られたことはない		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人の研修会や法人内の他事業所の職員と連携をとれるようにしている		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修にて学習の機会を設けたり、会議などで話し合いの場を設け居ている		今後も徹底していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には契約書について説明を行い、一度もって帰ってもらいご自宅でもじっくり読んで頂く様に努めている。解約の際には口頭のみ説明となっている</p>		<p>前回指摘のあった”退去時の書類”が作成されていないので、作成をする</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>生活相談員、苦情相談員を配置し、利用者からの要望があった際には大きさに関わらず会議にて情報を流し(必要に応じ匿名にて)改善に努める</p>		<p>GH職員以外に話のできる機会を設けたい</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月中旬に「ケアプラン」に生活状況を、「潮の香だより」に写真を掲載し、配布している。また家族の来訪時には職員から口頭にて近況報告をしている</p>		<p>内容の改善は検討中</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>生活相談員、苦情相談員を配置し、入居者や家族に説明をしている。また法人内に評議員を設けている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>第2火曜日に「運営会議」を行い、行事や購入物などの話し合いを行なっている。また第4火曜日には「ケア会議」を行い利用者のケアに関する事項の話し合いを行っている</p>		<p>本当に反映されているかを考える必要はあると思う</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>夜勤が1名体制のため、利用者さんの体調不良時には1名増員を行い、対応している</p>		<p>総合支援センターとして宿直者も1名配置済み</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職は極力抑えている。また家庭の都合などで離職した職員も時々顔を見せてくれている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月法人内学習会を開催している。また必要に応じ法人に届いている研修会の案内の情報を流している		GH内では具体的な計画までいたっていない
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では行われているが、外部に関しては現在行われていない		調整中
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ある程度自由の利く勤務体制を組み、体調や家庭の事情に応じ臨機応変に対処している		休憩室の設置も考えたが難しく、現状を利用した休憩時間を設ける
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	新たな取り組みの提案があった際には利用者さんへの不利益が生じない範囲での実施を行っている		職員のマンネリ化がおきていないか、検討する必要がある
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	主治医や担当ケアマネなどと一緒に話をする機会を設ける。また、それ以外に相談があった際には秘密を保持(必要時応じ利用者和管理者のみ)し、対応している		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	主治医や担当ケアマネなどと一緒に話をする機会を設ける。また、それ以外に相談があった際には秘密を保持(必要時応じ家族と管理者のみ)し、対応している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ、利用者さんと必要とされるサービス事業者、管理者、職員の話し合いの場を設けている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	空き部屋のある場合は数日間の体験入居と言う形を取り、場に馴染めるよう配慮している		本年度初めて、要望があり受け入れた事例なので、今後体験入居の体制を本格的に作り必要がある
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	時に対等、時に上下があったりしながら利用者さんが職員に対し相談などをしたり、その逆に職員が利用者さんに相談をしたりしている		”仕事”から離れた始点で職場を見つめることをしていきたい
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員の一方向的な意見を言わず、”助言”として本人を支えていくことをしている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居までの関係を把握し、家族への対応に配慮している		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	帰宅支援や地域行事への参加への対応を柔軟に行なえるように心がけている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者さん同士が良い関係を保てるように日々の中や会議内にて話し合いを設けている		関係は日々変化しているので、今後も努めたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	相談には柔軟に対応している		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会議などで「本人の思い」を「本人の言葉」で情報を流し把握、検討している		言葉としてだけでなく、内にある思いも汲み取りたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の作成		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケア会議での情報把握。また利用者さんに心身の状況変化があった際には専用の連絡ノートを作成し、より緻密に状況を把握するように努めている		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者、計画作成担当者を主とし、各利用者さんに1名ずつ担当者を配置、各担当者が中心となり、ケア会議などで本人の状況やケアについて話している。またその際に本人や家族からの要望を盛り込めるようにしている		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1回介護計画書を作成しているので、今まで臨時に大きく計画変更をした事はない。もしそのような状況(大きな病気での入退院など)が生じた際には柔軟に対応して行く		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	前回の外部評価後に書式を変更し、より書きやすく把握しやすいように変更		運動量などを把握しやすいようにするための書式を作成中
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方からの家族の来訪に関しては、寝具などを貸し出し、本人の部屋に泊まれるようにしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	主に地域の保育所との連携を取り、遊びに行ったり、お手紙を頂いたりしている		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内の居宅介護支援事業所への相談や連携、また必要に応じ以前担当されていたケアマネとの情報交換も行なっている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在までに行った事はない		具体的にどのように協働すればよいかを検討
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	終末期においては家族、主治医、事業者と話し合い、対応を検討している。また通常時においても家族の希望を聞き、家族、主治医、事業者の連携も持っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	法人の嘱託医等に必要に応じ相談、助言を求める。また必要に応じ専門医や精神科医への連絡を行なっている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ほぼ毎日1時間、看護職員(併設の知的通所介護勤務)のバイタルチェックを受け、情報交換、アドバイスを頂く		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院前～中～後にかけて入院期間との経過や調整を行い、退院日時が決まればスムーズに受け入れられるように調整を行う。入院中の経過や退院時の情報は連絡ノートや会議を使用し職員へ連絡する		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	大まかな話はしているが、一人ひとりに関した終末期の明確な取り決めは行われていない		職員全体で話し合いを行いたい
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族、主治医、事業者にて今後の体制について話し、医療機関、主治医への連絡方法、対応を聞いている		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時にはご自宅へ訪問し、自宅の間取りや雰囲気把握している。GHからの転居に関しては事例はない		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>会議等で話し、プライバシー、尊厳の保護に努めている。またそのような事例が発生した場合には注意、訂正をしている</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>状況に応じ口頭、文章(ポスター)などを使い分けている。自己決定を求める際にはなるべく時間をかけて行うようにしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の出勤者の範囲内で対応できること(外出等)を行っている。またそれ以外にも、緊急時やあらかじめ分かっている動きに関しては調整、または臨時の出勤を行い対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>行きなれた理美容室へいけることを説明している(実際には「近いほうが楽」などの理由で行きつけの店にいかれているのは2,3名)</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>日により個人が好きなものを取り入れたり、買物と一緒にいかれた際に利用者さんの希望により献立が変更されるなど、柔軟に対応している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>書式としてはないが、日々の会話の中でそういう話をしている。またその内容は会議などで話している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	体調不良時以外は(職員の意向による)オムツの使用はしていない。また、使用する際には本人が納得された上で使用している。		"紙パンツ" "オムツ" "ポータブルトイレ"などを、それぞれどのように使っていないといけないのかを勉強する機会を設ける
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は毎日2:30～6:00ごろまでと一応決めているが、希望や失禁対応などに応じ柔軟に対応している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人の休息や睡眠を妨げないようにその他の利用者さんへの対応を心掛けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を作成し、日々の生活や会話に生かせるようにしている。また、その会話などから新たに情報をいた際にはそのことを会議などで共有している。		まだまだ本人さんのことの"一部分"しかわかっていないと思う。先入観をもって接するのではなく、その人のできることを見つけ出せる力を作っていきたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理については制限はない。必要に応じ家族から財布の中身をお聞きしたり、送金に関して情報を頂いたりして、金銭トラブルのないように努めている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	突発的な外出にも、他の利用者さんへ不利益がない様に対応している。事前に分かっている外出に関してはあらかじめ勤務表で調整し、管理者やその他職員で対応している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	クラス会や親戚の家、友達の家にかかれる際には家族と連絡を取り、安全に参加できるようバックアップ体制をとっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話などの制限はなし。電話や手紙に関しても一部手伝えることや投函などを支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	外来者が気持ちよくこれらに対応することを職員に徹底している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解しているかはわからないが、開所から身体拘束はしていない		勉強会の開催
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員側からは防犯の為夜間玄関の施錠以外に鍵をかけることはない。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に居られる時にも安全確認のため、本人や他利用者に気づかれないように安否確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品がある場合にはまず外見を変えたり、職員が必ず側で対応するなどをして対応している。		突発的に起こる異食行動などを想定した環境づくり
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	会議などで情報を共有し、事故防止に努めている。緊急で必要な事項は連絡ノートや電話で対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期ではないが、対応について勉強したり、外部研修の情報を流したり、教本や対応についてのマニュアルを用意している。		緊急時にはすぐ動けるように、定期的な勉強会
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回。総合支援センター全体で行われている。GH協会などが主催する防災対策セミナーに参加している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時に説明をさせてもらっている。発症などでの新たなリスクについても連絡をし、状況を説明、把握、承諾をもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変を感じた際には上司への報告、必要の応じ医療機関への連絡、救急搬送を行っている。また長期的な病変や体力低下に関しては、専用の連絡ノートを作成し、連絡を密にしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院時に増えた薬は連絡ノートにて職員に連絡。副作用などがある際には顔色に注意するようになどの情報を流している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が長期続く際には連絡ノートに記入し、水分補給や頓服薬の服薬、入浴時のマッサージを行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声かけや支援などを行っているが、不完全なところがある。		毎食後の口腔ケアの支援体制

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事での水分摂取が少ない方には食後の一杯をお出しするなどして対応している。またその情報をワークシートや連絡ノートに記入している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各マニュアルを作り、流行時期には情報を流している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生ものの使用には注意し、警報が出た際には特に注意し、食中毒予防に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	総合支援センター正面玄関に新たに案内板を設置している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物や展示物は季節に応じ変更している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、憩いの部屋、ベッドや椅子を設置し、好きな場所で過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	居室へ使用している家具は使い慣れた物を搬入し、使用を 促している。安全の範囲で自由に使って頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	気温や換気には配慮しているが、構造上難しい部分もある (はめ殺しの窓など)		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	手すりやウレタン剤を使用し、怪我の防止についとめている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	日々混乱や防止を防げるように支援し、突発的な混乱や失 敗にも個別に対応できるように努めているが、構造上難しい ときもある。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	テラスでは、お茶会や焼肉、子供さんたちと遊んだり活用し ている		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)